

時代に合わせて変化できる 常に挑戦し続ける経営力とは

佐賀県鳥栖市は、福岡県に程近い平場で昨年の仮渡金は9000円。10t車が入れない農道に、小区画圃場が多いエリアだ。一人一人がよそと引けをとらない面積をこなしているにも関わらず、彼らは集まって稲作以外にもジャガイモに、酒米、多収米ミツヒカリ、飼料米など次から次へと挑戦を続ける。厳しい時代はチャンスと話す彼らの声を届けたい。

全国的に誰でもが作れない
からこそ取り組む価値がある

昆吉則 お二人はジャガイモを紹介したときも、ミツヒカリを紹介したときも、次々に大規模に取り組みを始めてくれましたね。今日は時代に合せて変化していくようなお二人とのお仲間たちの経営の形を紹介したいと思っています。ジャガイモは完全に機械化されていて、なおかつ投資がそれなりにあって、人の差が出るというのが面白いですよ。ね。
松隈利生 全国的に誰でもが作れないというのはありがたいことなんです。ね。そんな話はないですよ。
手島健次郎 競争相手が少ないです

から。

松隈 私たちのいる鳥栖では、佐賀のタマネギが有名ですが、儲かるときと儲からないときの落差が激しいんです。それにタマネギに関しては機械化されていないんですよ。そこで、ジャガイモを始める前はかなり調べました。結局、内外価格差が少ないとか、泥つきだったら持つてこられないとか、長持ちしないから緑化したらいけないとか管理が厳しい。一番に思ったのは投資が大きいから誰でも作れないだろうということでした。結果的に価格が安定することにつながるんですよ。
昆 いい視点ですね。これはすごく重要です。みんなができることをやっちゃ駄目だって。



松隈利生氏 1954年生まれ。経営面積は約56ha。品目はコメ25ha、ジャガイモ16ha、麦10ha、大豆3~4ha、キャベツ1ha、タマネギ20a、ニンニク15a。

松隈 周りに言われたのが「こんなに忙しいときに、よく作るわ。もうちょっと暇な時期だったらうちも作るのよ」と。でも、そこで作られたら私たちは困るわけです。みんなが作れないからこそ価値があるんですよ。みんなが作れるものを作っても何もならないんです。
昆 最初の年はどのくらい作ったんですか？
手島 5ha以上ないと契約しないと。言われて、植え付け終わったら7haくらいでした。それから、どうやって掘るか、ということでハーベスタ探しが始まったんです。掘るところも見たことなかったです。
昆 それにしても、1戸あたり14〜



手島健次郎氏 1958年生まれ。経営面積は約41ha。品目はコメ19ha、ジャガイモ6ha、麦15ha、キャベツ・白菜・ニンニクほか60a。

15ha、定期的にそんな大面積でできるんですか？
松隈 できますよ。現にやれていますから（笑）。
手島 2週間で全部終わらせる計画で、実質10日あるかないかですね。
松隈（裕） うちは一日1・3〜1・4haくらい掘っていきますね。そうしないと間に合わないですね。そのくらいやらないと機械の投資に回せないですよ。
昆 そういうことなんです。限界だと思ってるだけで、投資を早くした人が勝てるんです。
松隈 今、風潮としては物を言い値で高く売ろうというやり方なんです。ね。ところが、魚沼のコシヒカリ

[出席者]
松隈利生 裕己
手塚健次郎 拓也
[司会者]
昆吉則



松隈 裕己氏 1983年生まれ。キャンメンテナンスの22歳で就場。ジャガイモ栽培のほか現場作業を切り盛りする。

だって、高ければ売れ残る時代でしょ。それと同時に物が安くなれば、自分のも安くなる。だから自分が買える値段でやっていけるような単価をつけないと。人よりも高い単価で売ろうという気はないです。

昆 肝心なのは単価じゃなくて利益なんですよ。

松隈 本心に勉強になったのは、この前やめました。ブルーベリーなんです。ブルーベリーは100g500円もする。ジャガイモはキロ単価50円くらいでしょう。なっている量からすると、確実にブルーベリーは儲かるんですよ。ところが蓋を開けてみたら、ジャガイモの方がいい。利益が残るんです。

昆 たぶん今、ジャガイモが一番収益性が高いでしょ。

松隈 高いです。安定してます。

昆 例えば、ジャガイモを、今度はミツヒカリを始めるときには、この仲間とならと思うんですか？

手島 最初はジャガイモの話に誰も見向きもしなかったですね。



手島 拓也氏 1987年生まれ。千葉県農業大学校卒業。その後、就農。ニンニクなどの野菜栽培を手がける。

松隈 ミツヒカリは昨年まで11俵、12俵だったので、そのままの状態だったらたぶんやめていったと思います。ところが去年たまたまもの凄くとれるようになってきたのです。すると、それならうちもやってみようという農家さんが増えてきます。結局、飼料米にしろ、何にしろ、初めは補助金をもらわずに作って苦労した人がいるんです。私は誰でも作らせようという気はないですよ。

やっぱり様子を見て後からついてくる人は逃げるのも早いですよね。だから、いろんな話があっても、この人は合うだろうという人しか声をかけていかないですからね。

世の中の動きに 대응するために 選択肢を一つでも多く増やす

昆 ところで、ジャガイモを紹介したきっかけは集落営農やJAがどうにもならなくなって、助けを求めてくるような話 came ということでしたね。あれはいつ頃でしたか？

手島 平成15年の品目横断ができた頃でしたね。翌年にカルビーの話聞いて、ジャガイモの収穫初めが平成17年でしたから。

松隈 私たちもその当時、集落営農で全部小さい農家がまとまったら田んぼを増やせないという危機感があつたんです。それに、集落営農によって水の管理をするようになったら、自分たちが自由に作物を作れない。それだったら自分たちが実権を握れば自由に作れるんじゃないかという発想だったんです。農家が集まってカントリーを作っているのですが、そこ自体も作りきらないというわけです。どうせ動かせないのなら、自分たちが動かそうと。

昆 でも、現場でやらせてみたら、結局誰も作れなくて、皆さんに頼ってしまっている。農協側からすれば困った連中なのに、向こうから言ってきたのか、こちらから働きかけたのか、どちらなんですか？

松隈 いや、両方だと思えます。今は私にも手島君も後継者がいるから問題ないんですよ。その当時はいなかったから、病気になったら、うちの経営は誰がしてくれるのかという怖さもありましたし、それなら、共同乾燥施設を残したらいいだろうという気持ちもあつたんです。今みたくに後継者がどこにでもできるとは

思っていなかったから。
昆 皆さん方にしても、後継者が本当に来るかどうかという不安感もあつたんですか。

松隈 いや、不安もあつたし、はっきり言つて、こんな農業を継いで苦勞させるよりは、会社行つてずっと続けるなら、その方がいいのではないかと思つていました。でも、それと同時に終身雇用制度がなくなつて、会社は農業だけでなくて、会社も危ないと思つた頃に息子から会社をやめて農業をしようと言われて、それならという感じですよ。

手島 キツイ仕事をなんでオヤジが押さえてくれるんでしょうか。継げと言わなくてもなぜか跡を継ぐようになってきましたよ。

昆 息子さんは農業をやれと言わ



東洋農機製のジャガイモ用ハーベスタ。生産開始から1~2年で導入。仲間で共同所有し、1台ずつ管理担当を決めてメンテナンスを行なう。

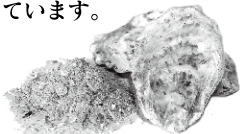
GREENMAN

新製法 「焼いていない」 カキ殻肥料

- 連作障害対策
- 土壌改良
- カルシウム欠乏症の改善
- 根張り・色つや・質量・糖度・日持ちの向上

従来のカキ殻石灰肥料の多くは高温で焼成されているのに対し、蛎右衛門(かきえもん)は「低温乾燥」式で製造。良質のカルシウム・ミネラル・アミノ酸などを焼失・化学変化させず、本来の有用成分を保持しています。

葉菜類・根菜類・果樹などあらゆる植物と相性良好です。



蛎右衛門 (かきえもん)



好評につき
期間延長

キャンペーン特別価格

20kg・600袋以上のご注文で

1袋 **350円** (税別・送料別)
※2012年6月30日までの納品分対象

株式会社グリーンマン

〒987-1304
宮城県大崎市松山千石字鶴田115-3
TEL.0229-54-1366
<E-mail>info@greenman.co.jp
http://www.greenman.co.jp/

グリーンマン

検索



松隈氏のジャガイモ圃場での植付作業の様子。訪問時は植付け作業の真っ最中で、圃場に4台もの移植機が同時に稼働。収穫は6月頃の予定。

れたわけじゃないでしょうか？
手島(拓) 言われてはないですね。
松隈(裕) 昔から兄弟のうちの誰かはやらなくてはいけないと思ってました。30歳過ぎくらいからいいかなと考えていたんですが、カルビーの話が来て、それならもう始めようかと思って。要はコメ・麦・大

豆からスタートすると勉強ができません。もう栽培方法が、ほとんど出来上がっているんですよ。自分が仕事を持っても、親からまず反対されるでしょう。私がやる価値はないですよ。言われたことだけすればよくて、勉強にならないんです。
昆 作業員にさせられている状態だね。新しい仕事が始まるときというのは、就農するチャンスとしてはいいのだろうね。これから先、何をやるべきだと思っていますか？
松隈(裕) 選択肢を増やしていくだけだと思っんです。世の中の動きが変わると影響を受けるから、人よりも多く選択肢を持つておけば、その時代に対して、要はいい選択肢に切り替える。他の人ができなくても、乗り越えていける。その選択肢をいかに一つでも多く作ってい

けるかというのが今からは大事だと思うっているんですよ。
手島(拓) もうジャガイモでもある程度、できる面積が限られてくるので、次の作物に挑戦できるような機械を持つていないといけないですし、持つている機械で何ができるのかというの、切り替えて、次にこつち、というように移り変わる考えを身につけていきたいです。
手島 やつぱり子供というのは新たな部門を挑戦させないと伸びないかなと思います。だからジャガイモも始めてみました。今、次の作物を勉強し始めています。
松隈 今の後継者はしっかりしていますよね、みんな。オヤジがどっぷり頼っているという感じが意外と多いですよ、どこも(笑)。
昆 お父さんたちほど、時代に合わ

さつて、どんな変化させられる人っていないですよ。佐賀のコメなんか、高く売れない、ますます商業用は減るし、どうしようっていう時に単に規模拡大っていうだけじゃなくて、事業の意味に役割を変えていかなければいけないのです。
松隈 ここは雨は多いし、雪も多い。夏は1日中暑くて、冬になれば1日中寒いという天候で農業条件が一番悪いんです。だから県内でも規模拡大が進むのだと思います。
昆 みんながやらない場所にいるから得してる。それで、みんなが駄目だと思ってるから儲かるんです。
松隈 会社でも何でも厳しいときに一番変わるんですよ。そこで生き残れるかどうか決まります。
昆 そうですね。今日は皆さんありがとうございました。